

【「まち工房」紹介】

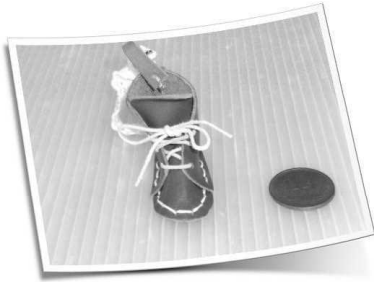
いちご工房では、特別支援学校を卒業する子どもたちが働く場所となるよう準備を進めています。将来、子どもたちが毎日作業ができるよう、主に樹脂や本革を使った製品の作成、町内の業者さんから頂いた内職の仕事を継続して行っています。

現在は保護者と有償ボランティアの若者が仕事をしていますが、特別支援学校の生徒の作業実習受け入れを通して、来年度以降「福祉作業所」として動きだせることを目標にしています。

また、働く場所とするためには「売れる商品」を開発・制作していく必要があります。

幸い石川県金沢市の革工房を兼ねる雑貨屋「Bently. s & Job」さんより、本牛革の無償提供をいただいております。様々な商品の試作を重ねています。作品例をご覧ください。

制作した作品は、啓発を兼ねて広く販売をしていきたいと考えていますが、商品を扱っていただける場所の開拓が難しい状態です。これからイベント参加の際などに、商品販売を行うっていくつもりですが、会員の皆様にも、商品を扱っていただけのお店をご存じでしたら情報をいただけると有難く思います。



【製品の紹介】

一、ウエスづくり
不要になった浴衣等を作ったウエスを作っています。買ってくださる企業があり収益につながっています。ウエスになりそうな古着がありましたら寄付をお願いします。



一、ハッピの裁断

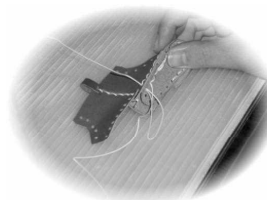
神岡にある縫製会社からハッピの裁断の内職の仕事をいただいております。月水金は終日作業を行っています。

一、作業内容一覧

- ◆ ハッピの裁断
- ◆ チラシ、パンフレット袋詰め
- ◆ 粗品等のシール貼り
- ◆ ウエスの作製
- ◆ 白地布ゆた地布
- ◆ 古着（綿）布
- ◆ 授産製品
- ◆ 鉾石入りストラップ、キーホルダー、革製品の作製



一、革製品づくり



【編集後記】

たくさんのお品寄付ありがとうございました。山田福祉村での事業がスムーズにスタートできたのも、皆さんのおかげです。本当にありがとうございます。

自然の中、そして山田地区の方々の温かさにもふれ、この地で活動できる幸せを感じます。5月4日の山田例祭には獅子もきてくれました。本当に皆さんの支えのおかげです。

これからどうぞよろしくお願いします。

きんぞうが落とし
ていった飾り？ 悪
よけ？ ピースに幸
がきます。



ともに暮らしたい

第2号 平成26年7月5日

日中一時支援事業所「ピース」の活動報告

特定非営利活動法人 飛騨市障がいのある人を支える会

「ピース」サービス提供責任者 森下 智代

日中一時支援事業「ピース」がスタートして二ヶ月。

それぞれが楽しみにピースに来てくれているようで、とても嬉しく、また、私たちも楽しませてもらっています。

平日は学校や仕事帰りの四時から六時。おや

つを食べた後は自由にゆったり過ごし、土曜日は十時から四時。十時と三時におやつを食べ、一時過ぎに自然とふれあい

ながらの散歩を楽しんでいます。自由時間の過ごし方はそれぞれで、本をみたりごろごろしたり。ねんど、プラ板、トランプやゲームを楽しむ。劇のストーリー衣装配役を考え楽しむ等々。譲り合いもしながらCD、DVDを見ることも。

中にはピースへ来ることを励みに仕事にがんばって行ってる方もみえる。と聞き嬉しいかぎりです。

帰る時間が近づくと「次はピースいつ？だれがくる？」と言ってくれる言葉に私たちが元気をもらっています。まだまだ試行錯誤が続いていますが、少しでも楽しく、みんなの笑顔が増えることを願っています。



ご協力に感謝!

目録

一、ベルマーク 十万点

右、贈呈致します

平成二十六年四月二十四日

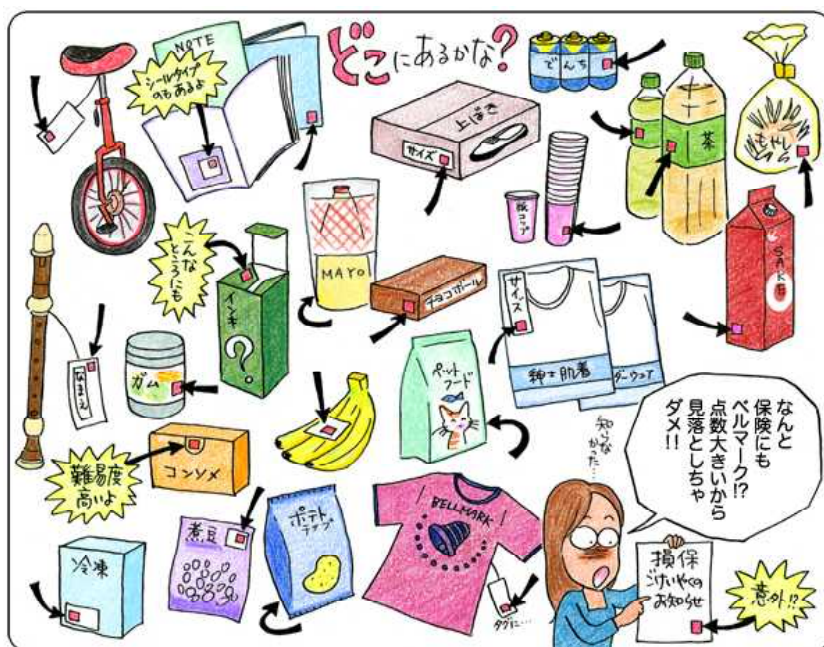
特定非営利活動法人

飛騨市障がいのある人を支える会

理事長 奈木 桂子

岐阜県立飛騨吉城特別支援学校

校長 船渡 千賀子 様



こんな「ベルマーク」もあります。

- ◆使用済みのインクカートリッジ・トナーカートリッジの回収 = エプソン、キヤノン、ブラザー製
- ◆三ツ矢サイダー = アサヒ飲料 ◆グリーンスタンプ
- ◆新学社 ◆イーイーアイ ◆日本テトラパック
- ◆NGP日本自動車リサイクル事業協同組合

今年も飛騨吉城特別支援学校へ十万点寄贈することができました。飛騨市内の小中学校の皆さんや保護者の皆様、さらには活動に協力していただいている地域の方、会員の皆様のおかげだと感謝感謝です。さらに活動を充実していきたいと考えています。活動の推進にご協力ください。

「ベルマーク運動の推進を」

支援は、身近なところから。

障がいのある人もない人も、安心して暮らせるまちづくりをめざして。

特定非営利活動法人 飛騨市障がいのある人を支える会 理事長 奈木桂子

〈プレスに紹介していただきました〉



左から、藤下さん、奈木さん、山本さん。

「障がいのある人もない人も安心して暮らせるまちづくりをめざして、平成二十年に設立した飛騨市障がいのある人を支える会では、誕生から就業まで、一生涯にわたって途切れない支援体制を実現するために地道な活動を続けてきました。平成二十一年には飛騨市発達支援センターの設置、そして平成二十五年には飛騨古城特別支援学校の開校と、誕生から高等部卒業までの支援体制充実のために一助を担うことができました」と話してくれた奈木さんが平成二十六年三月五日、特定非営利活動法人の認証をうけた飛騨市障がいのある人を支える会の理事長として、これまでの経過を振り返ります。

四月より、〈山田ふるさと福祉村(山田保育園・飛騨市神岡町山田)〉に日中一時支援事業所「ヒース」を開設、ここを拠点に新たな支援活動に取り組んでいます。「ヒース」では主に特別支援学校高等部から成人までを対象として、障がいのある人の長い人生に寄り添いながら、一人ひとりの生活の質がより良いものになるような支援をしていきたいと考えています。

「今のところ、日中一時支援は平日の夕方

と土曜日ですが、来年からは朝から夕方まで毎日受け入れができるようにしたいと考えています。卒業された方には作業なども取り入れ、それぞれのニーズに合わせた日中活動の場を提供したいと考えています。これからの取り組みを話してくれました。いまは飛騨市より神岡町公衆トイレ十五カ所の清掃請負事業を、神岡町との会も引き続き行っていますが、今後は自主製品(樹脂製品)皮革製品の作成を、いご工芸の匠の手を借りながら取り組んでいきたいと考えています。「めざしているのは生活介護です」という奈木さんは、重い障がいのある人も受け入れることができる施設にしたいと考えています。

「せっかく地域に支援学校ができたのだから卒業しても地域で暮らすことができようになりたいです。地元の企業に就職ができれば仕事をもちょうことができれば、商工課や商工会議所、商工会に挨拶に行き、この事業所のPRをしています。障がいがある人もなくも同じ人間として、社会で共生できるように、ここで地域共生社会をつくっていくという想いがあります。」

〈飛騨市障がいのある人を支える会ではくルマーケ運動に取り組んでいます。

「飛騨古城特別支援学校へ備品を寄贈することも大事ですが、地域の手もたちみんなでも支える気持ちを持って欲しい」と奈木さん。



「ヒース」の様子。

特定非営利活動法人 飛騨市障がいのある人を支える会
飛騨市神岡町山田2358番地2
TEL.0578-82-1559

①障がい、若者の就労支援事業 神岡町公衆トイレ掃除請負事業
②障がい、若者の相談事業
③障がい、若者の地域交流及び余暇支援事業
④地域福祉向上のための啓発事業
⑤障がい福祉サービス事業 日中一時支援事業所「ヒース」

◆ ベルマーク贈呈式ならびに飛騨古城支援学校PTA総会でのPR活動の様子 ◆

